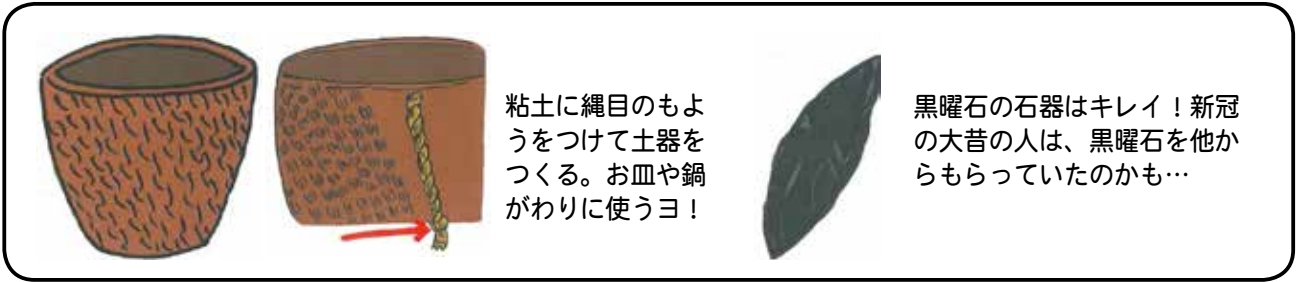


◆縄文時代の環境とは◆

2万年前の寒かった北海道も少しずつ暖かくなってきました。氷河がとけて海面が上がり、大陸から別れたことで北海道は島になりました。気候は今よりもあたたかく、サケやマスなどの魚、シカやウサギなどの動物、山菜やドングリなどの植物が豊富にありました。その後、しだいに涼しくなりましたが、様々な自然の恩恵を受けながら発達したのが「縄文文化」となります。この頃に使われた代表的な道具が、縄目がついた模様を施す「縄文式土器」です。そのため、この時代のことを「縄文時代」といいます。また、矢尻やナイフなどは石が使われており「石器」といいます。これらの道具は、自分で作るとともに、交換しながら手に入れていました。この縄文時代、数千年間もの長きに渡るもので、明治時代以降の現代よりはるかに長いのです。



◆昔の時代と文化財◆

縄文時代をはじめとする時代区分は学校で習いましたね。でも、北海道は島になっているので本州とは少し違います。わかりやすいのは、北海道に弥生文化（時代）がないと考えられていることです。この頃、引続き縄文式土器が使われていたことから「続縄文時代」と呼んでいます。そして擦文時代、アイヌ文化期と、北海道独自の時代区分で表わしています。昔の北海道の人は、島であるためにゆっくりと長い年月をかけて他地域の文化と交わり、北海道ならではの文化が見られるようになったのかもしれません。

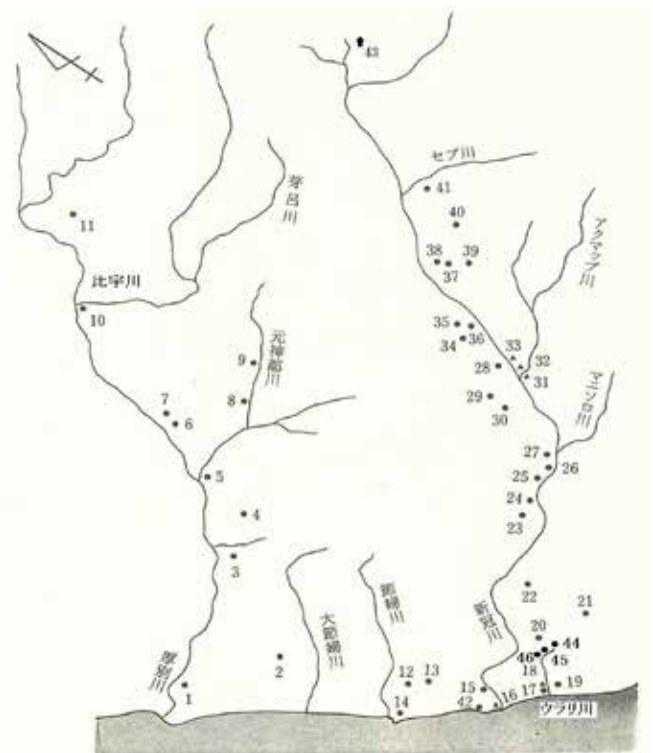
明治時代以前の文化や生活の跡は、日本や北海道の歴史を伝える大切な財産であることから「文化財」として守ることとなっています。新冠においては、アイヌ民族が伝承する「古式舞踊」は、国の重要無形文化財に指定されています。その他、地面に埋まっている遺跡は「埋蔵文化財」と呼ばれ、こちらも保護がかけられています。新冠の場合、46箇所もの埋蔵文化財があり、新冠川や厚別川沿いの丘の上にあるのが特徴となっています。川のそばで水が得やすいけど水害の被害を受けづらい場所に住んでいたようです。

【年表】

年代	本州の時代区分	北海道の時代区分
13000年前	旧石器	旧石器
12000年前	草創期	縄文 (時代区分は同左)
10000年前	早期	
6000年前	前期	
5000年前	中期	
4000年前	後期	
3000年前	晩期	
2300年前	弥生～古墳 飛鳥～平安 鎌倉～江戸	続縄文 擦文 アイヌ文化

※簡略化して表現しています。

【上図】先史時代の区分～北海道『北の縄文世界』より



【上図】新冠町の遺跡分布図～新冠町『続新冠町史』を郷土資料館で加筆



今年、新冠町で22年ぶりとなる発掘調査が行われています。また、今回実施している調査は（公財）北海道埋蔵文化財センターが主体となっており、専門機関による調査は初めてのこととなります。どんな調査をしているのか、そもそもなぜ調査が行われているのか、そして新冠にはいつから人が住むようになったのか、わかりやすく紹介していきます。

◆いつから北海道・新冠に人が住むようになったの？◆

アフリカで誕生した人類（ホモサピエンス）は、世界中に広がっていきました。北海道には約2万年前の遺跡が見つかっています。この頃は今よりずっとしばれていて氷河もあり、海水面はずいぶんと低くなっていました。そのため、北海道とサハリンの間で海底が浅い所は陸続きとなっており、マンモスやヘラジカなどの動物を追って、人間が今の北海道あたりにやって来たのがはじまりと考えられています。

新冠では、縄文時代早期頃の土器片が発見されています。そのため、約8000年くらい前から人が住んでいたといわれています。ただ、これからの発掘調査によってもっと前から人が住んでいたという結果が得られるのかもしれません。数千年前もの大昔、北海道や新冠の雄大な自然とともに人間が織りなした「縄文時代」とは、いったいどのような環境だったのでしょうか…？

【右図】2万年前頃の日本列島～北海道文化遺産活用活性化実行委員『北海道 大昔の暮らし』より

